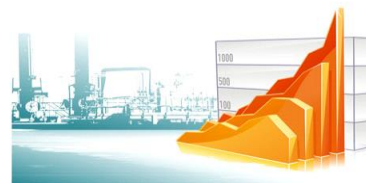


ぎふ経済レポート



平成29年9月分
岐阜県商工労働部

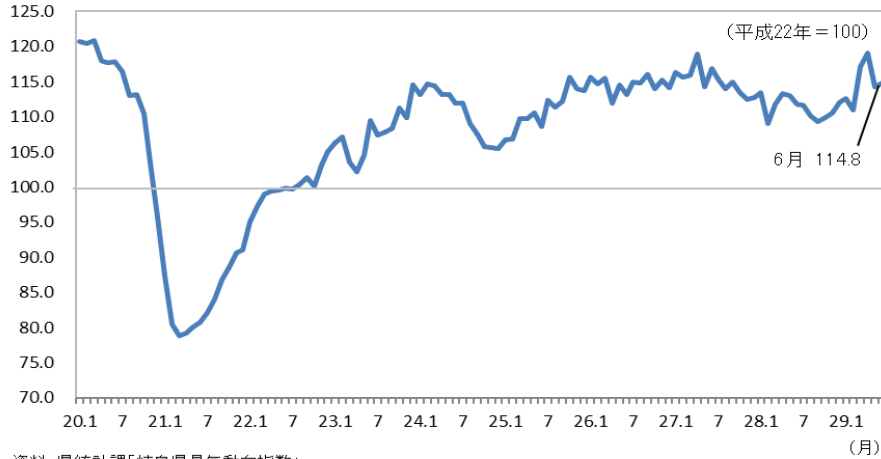
※企業等へのヒアリングは 9月25日～27日を中心に実施し、10月6日に作成。

景気動向

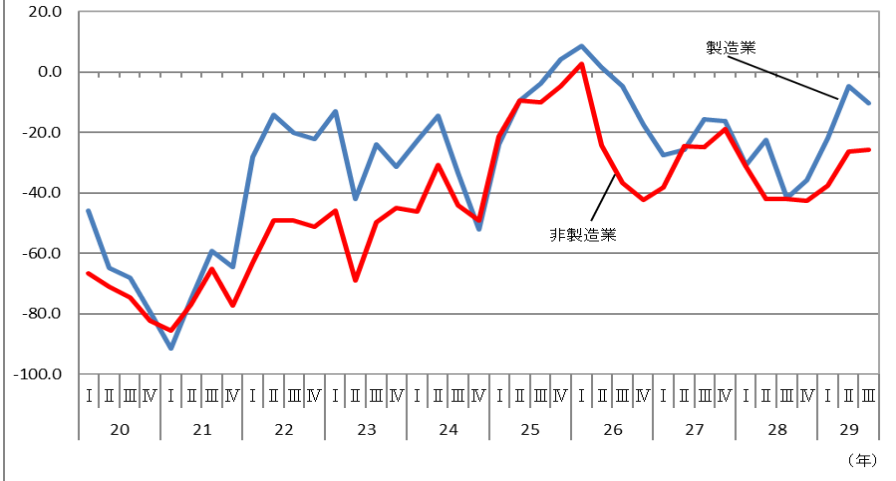
- 6月の景気動向指数(一致指数)は、114.8と前月比0.5ポイント改善した。
- 8月の県内中小企業の景況感は、マイナス19と前月比プラス8ポイントと大きく改善した。

- 平成29年7-9月期の景況感は、製造業は5.4ポイント悪化、非製造業は0.5ポイント改善した。
- 採算DIは、製造業が2.8ポイント、非製造業は2.0ポイント、それぞれ悪化した。

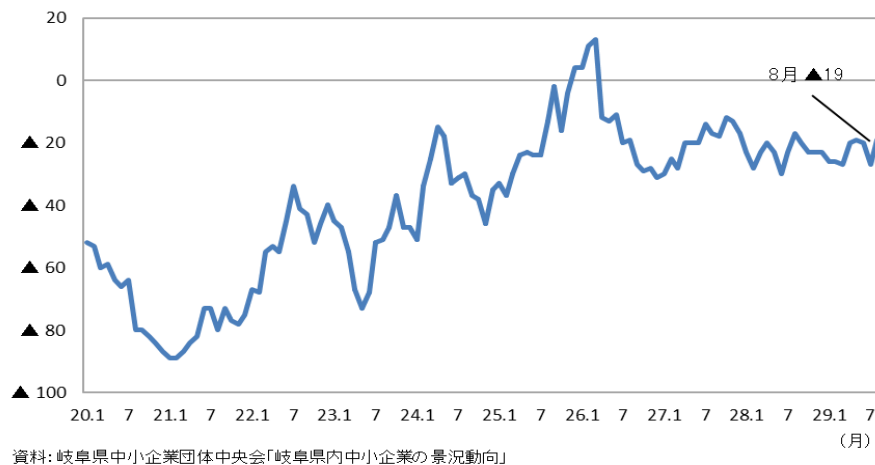
岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



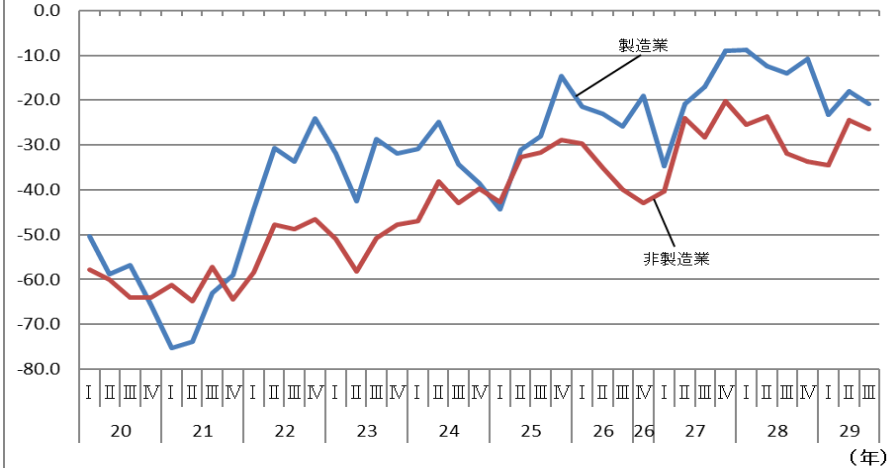
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の採算DI(増加-減少)の推移

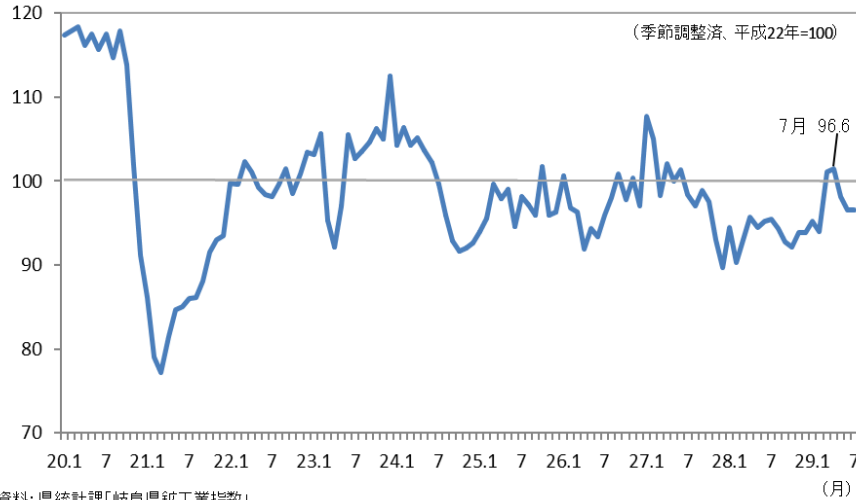


製造業

- 7月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、96.6と前月から横ばいでの推移となる。
- 前月に落ち込んだ化学工業、電気機械工業は反動で上昇した一方、輸送用機械等が下落。

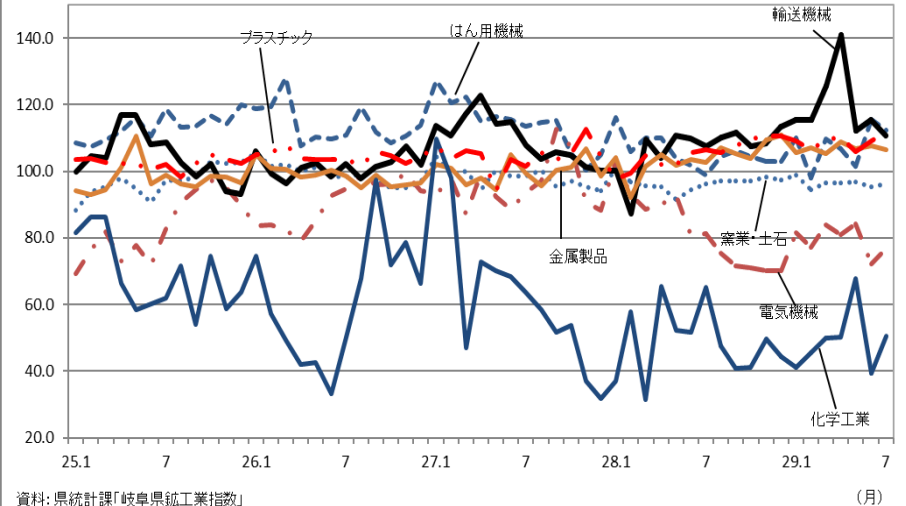
- 7月の主な産業の指数は、前月比で化学工業が10.9ポイント、電気機械が4.6ポイント、プラスチックが2.7ポイント、窯業・土石が0.9ポイントそれぞれ増加した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)

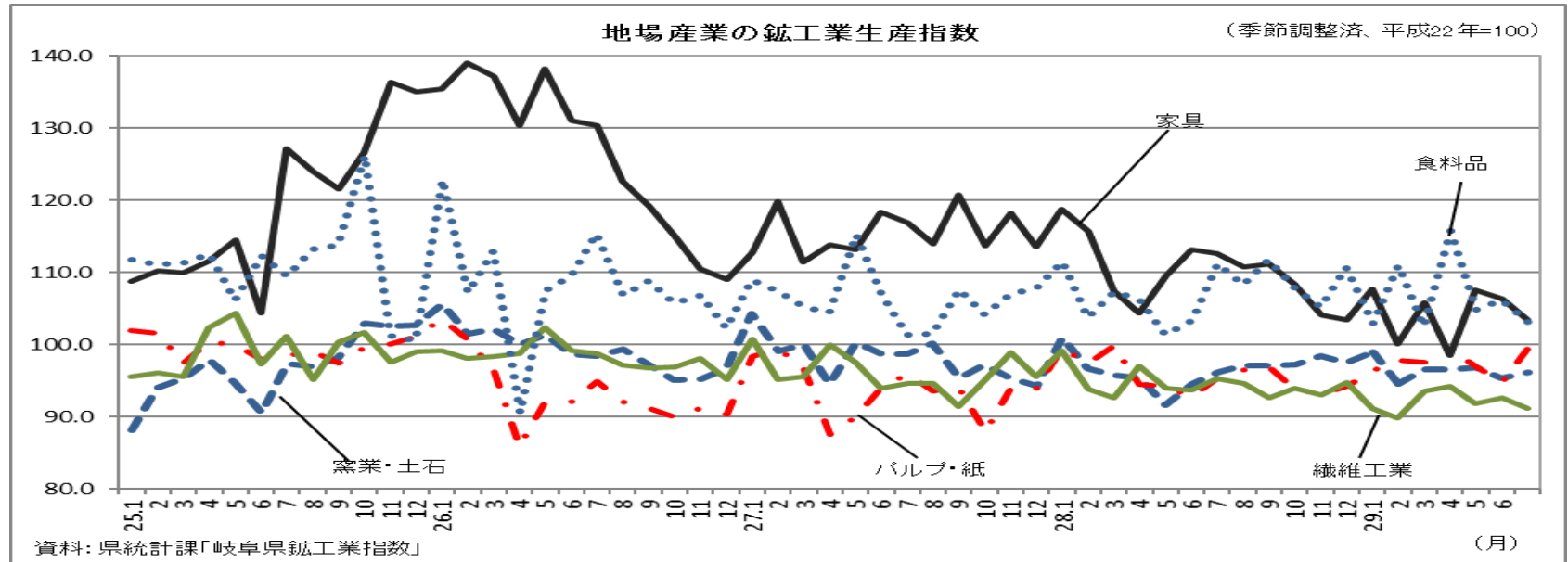


現場の動き

- ◆自動車関係については横ばいだが、今後新規受注分の量産が順次開始される。工作機械関係については、昨年末より増産していたが、取引先からの発注は落ち着いてきた状況。(輸送用機械)
- ◆9月の売上は前年同月比で若干増加したものの、利益は原料価格の値上げの影響により横ばい。(輸送用機械)
- ◆9月の売上は前年同月比で2%程度の伸び。春先くらいまでは続く予定。(非鉄金属)
- ◆売上高は対前年比8.2%増加。北米向けの自動車部品及び中国向け建設機械が好調。また農機具部品も排ガス規制前の駆け込み需要が出てきた。(生産用機械)
- ◆受注は引き続き高い水準を維持。中国市場においては年度当初に比べると一服感が出ているが、一定規模の受注が維持されている。国内市場においては、自動車業界からの受注が本格化し好調。(生産用機械)
- ◆決算月である8月は、過去最高の売上になった。サプリメントで新商品を含む大口案件の受注が増加。(食品)

製造業-2

- 7月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、パルプ・紙が前月比4.7ポイント増加し、99.4ポイント、窯業・土石が0.9ポイント微増し96.2ポイントと一部に持ち直しがみられる。
- 一方で家具が同3.0ポイント、食料品が同3.0ポイント、繊維工業が1.5ポイント低下するなど、地場産業の生産は全体的に引き続き厳しい状況が継続している。

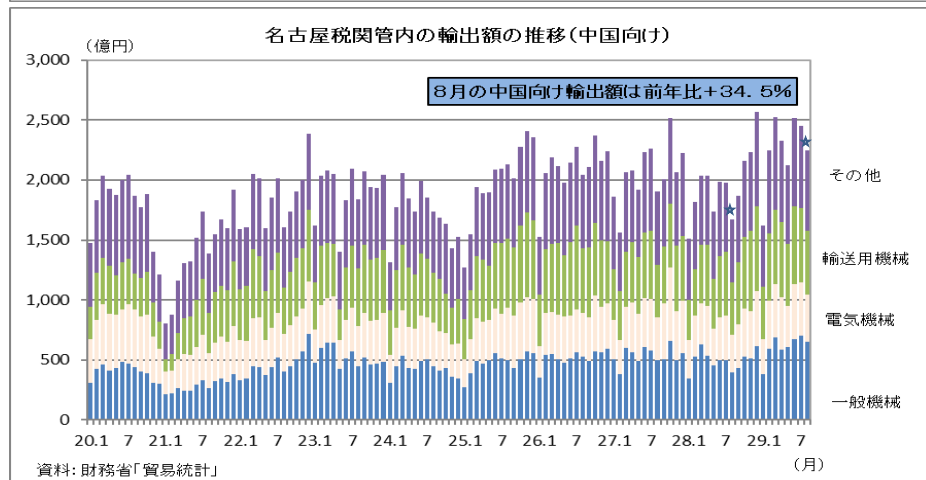
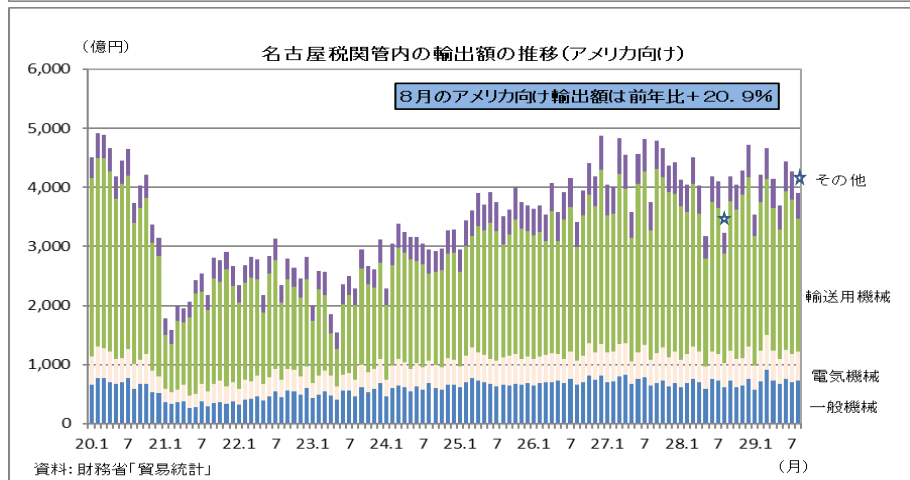
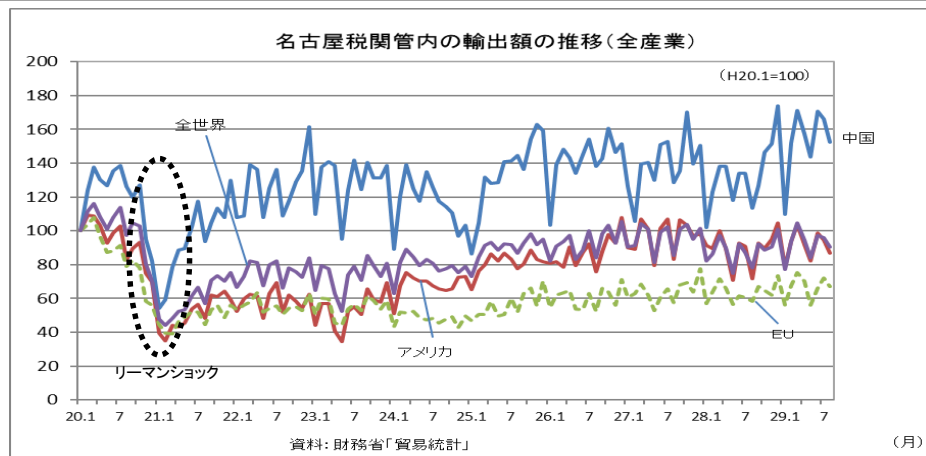
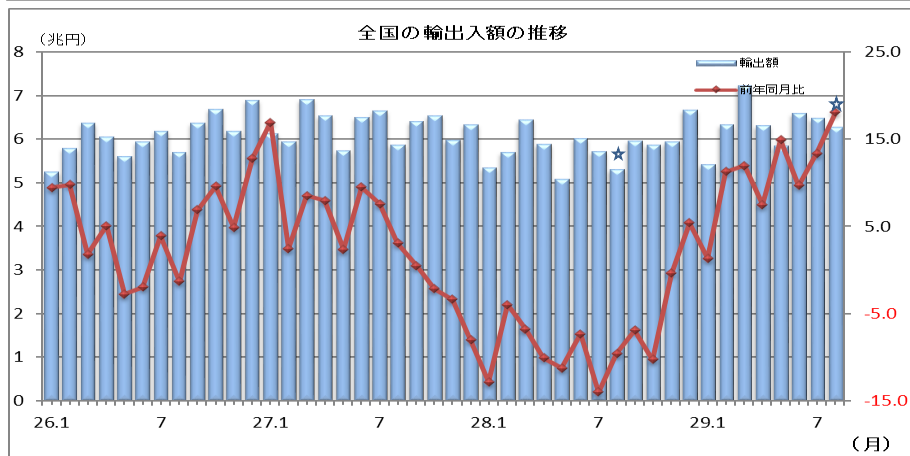


現場の動き

- ◆景気は悪い。アパレル全体の価格が下がっているため、利益が減少している。(アパレル)
- ◆前年実績等でも数字自体は良くなっているが、先行きへの不安があり楽観できない。(陶磁器)
- ◆売上は前期比10%増加。海外OEMや国内インバウンド向けといった海外需要が好調。海外の売上が2~3割くらい。海外からもメールで問い合わせがあり、取引につながっている。(刃物)
- ◆景況感は厳しい状態に変化なし。輸送費など様々な部分で値上げが生じているが、価格転嫁が困難。(紙業)
- ◆和菓子業界全般に言えると思われるが、下げ止まりからの復調の兆しが見える。(食品)
- ◆前年同時期と比較して、売上は若干多いが、景況感が良いとは言えない。(木工)

輸 出(名古屋税関管内)

- 8月の輸出額(全国)は、6兆2,786億円と前年同月比18.1%増加し、9ヶ月連続で増加となった。
- 8月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆4,401億円で、前年同月比16.1%増加し、7ヶ月連続して前年を上回る。一方で全産業の輸出額はリーマンショック以前の水準を回復していない。
- うちアメリカ向けは、前年同月比20.9%増加し、全産業で前年同月を上回った。
- うち中国向けは、7ヶ月連続で全産業で増加し、全体で同34.5%増加。一般機械65.1%増、電気機械26.6%増、輸送用機械20.2%増と引き続き高い伸びを示している。中国向けの輸出は、アメリカ、EUを含めた3地域の中で、リーマンショック前の水準を大きく上回って推移している。



為替・原油価格等の動向による影響について

- ◆中国から輸入しているレアメタルの価格が3割上昇する見込み。取引先の理解が得られるかが鍵。(輸送用機械)
- ◆OPEC協調減産合意に伴う原油価格の引き上げで、原料が値上げに転じており、厳しさが増す。(輸送用機械)
- ◆原油価格にて材料価格や電力が変動するので、業績に対する影響が大きい。(プラスチック)
- ◆原油価格の上昇により、材料費は上昇している。(食品)
- ◆FRBはテーパリング(緩和縮小)へ舵を切ったが、地政学リスクもあり為替相場の先行きは読みづらい。(金融)

日欧EPAによる影響について

- ◆自動車部品の輸出に係る関税の撤廃には期待しているが、現状では影響はわからない。(輸送用機械)
- ◆現在のところ様子見の状況であり、特に意見は無い。(陶磁器)
- ◆日本に輸入される製品の関税がなくなると聞いてはいるが、影響は特にない。(繊維)

働き方改革への取組みについて

- ◆人手不足もあり、ノー残業デーの徹底などの対応が難しい状況である。(プラスチック)
- ◆健康寿命の長い人なら、70歳を過ぎても雇用していく。10~15年長く働ければ生涯賃金も増える。高齢者を雇っている会社を国で認定するなどして、若い人が就職の際に参考に出来る制度があるといい。(製材)
- ◆完全週休2日はなかなか難しいが、現場内で休暇を調整し、休みが取れるように推進している。(建設)
- ◆終業時間以降の部署間の連絡禁止を継続し、定時時間内に退社しやすい環境が整いつつある。(コンビニ)
- ◆国を挙げての取組みであり、必要性は理解しているが、賃上げとの両立もしなくてはならず、中小企業ではそこまで手が回らないのが現状である。(陶磁器)

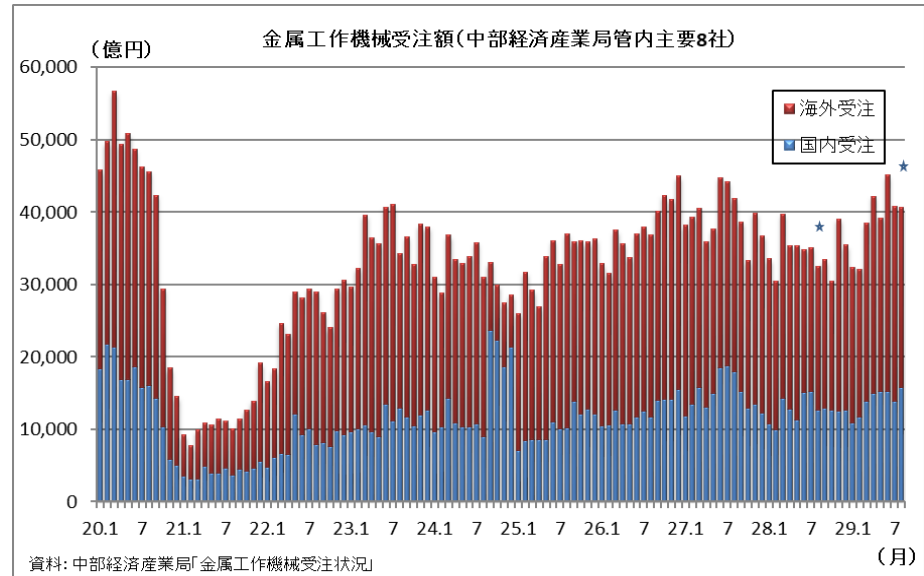
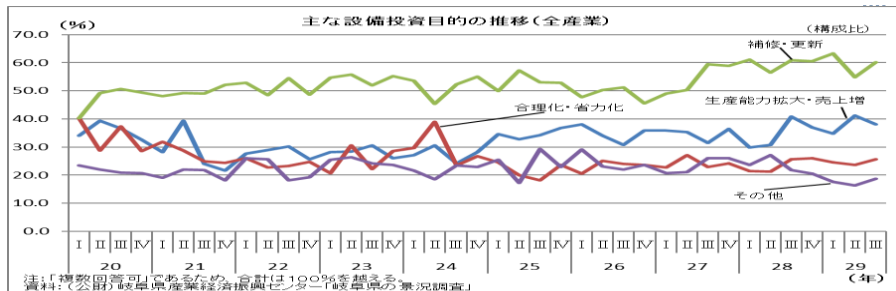
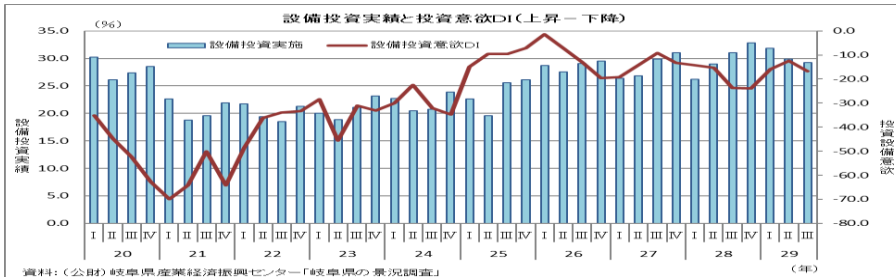
業界トピックス・トレンドについて

- ◆EVへの対応で、どの部品が生き残って何が伸びるのか、現在情報収集をしている。(非鉄金属)
- ◆自動運転、EVの注目度が高い。EVは政治的な絡みが大きく、EVが普及すると電力が足りない、充電に時間がかかるなど、現状ではまだ問題が多い。注目度は高いが先行きは不透明。(輸送用機械)
- ◆国際陶磁器フェスティバルの開催もあり、海外の注目を集めるきっかけと考えている。美濃焼新作展示会等も含め、一般工業製品のPR等にも力を入れていきたい。(以上、運輸業)

設備投資

○平成29年7-9月期の設備投資実績は前期比0.7ポイント減少。設備投資意欲DIは前期より4.4ポイント減少し、3期ぶりに投資意欲が減少した。目的別では、「補修・更新」及び「合理化・省力化」が増加し、「生産能力拡大・売上増」が減少した。

○平成29年8月の金属工作機械受注額は、国内受注は自動車向けが好調で、前年同月比25.1%増加。海外受注は北米、欧州、アジアが堅調に推移で同24.9%増加。全体では25.0%増加と大幅な伸びを見せた。



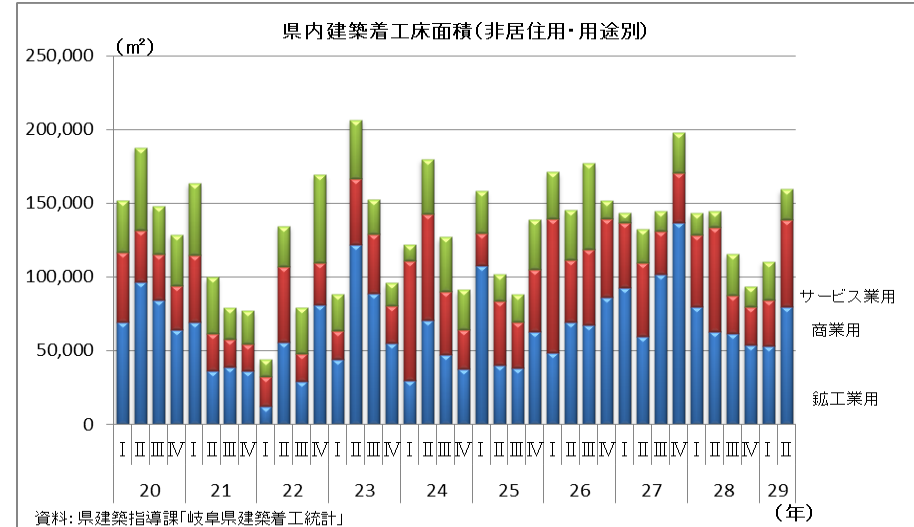
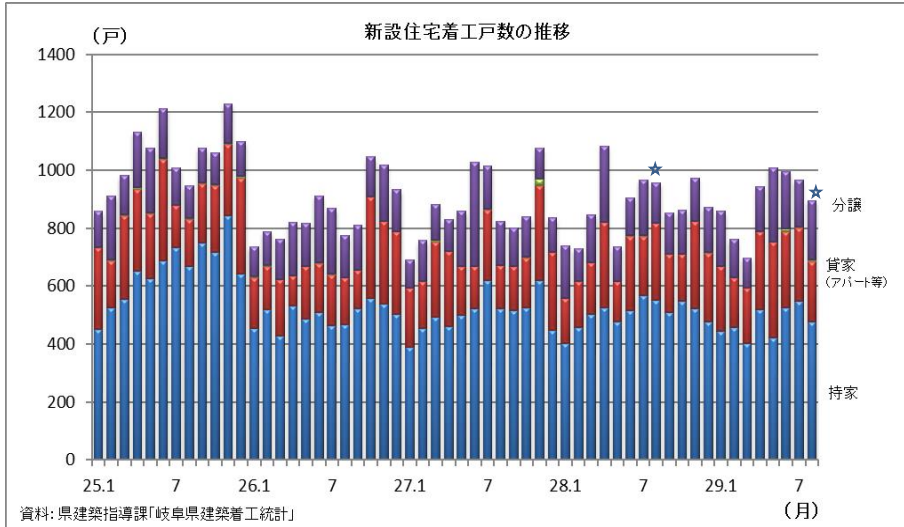
現場の動き

- ◆トヨタのトップから関連会社へ「環境技術をさらに向上させ、将来、自動車の燃料は化石燃料をやめ、再生エネルギーのみとする。」という方針が示された。今すぐという話ではないが、今後は、それに対応するための工場・設備の更新が必要になってくると思う。(輸送用機械)
- ◆IoTについては社長が積極的。AI技術がさらに進めば、部品調達等の管理にIoTを導入できる。(輸送用機械)
- ◆設備投資については、設備維持及び合理化投資を中心に実施している。(輸送用機械)
- ◆人手不足を工程や設備見直しでと考えている企業もあるが、採算性の観点から実行に至っていない。(金融)
- ◆機械は毎年購入。機械化が可能な部分への設備投資により、人手不足の解消を図っている。(食品)

住宅・建築投資

- 8月の住宅着工戸数は、前年同月比6.4%減少し、2ヶ月連続で減少した。
- 分譲住宅が前年同月比48.9%増加したものの、持家が13.5%、賃貸が21.4%それぞれ減少したことが、全体の減少につながった。

- 平成29年4-6月期の建築着工床面積は、前年同月比で鉱工業用11.7%、サービス業用7.0%それぞれ増加。商業用が同8.5%減少したものの、全体では同10.2%増加し、4期ぶりに増加に転じた。

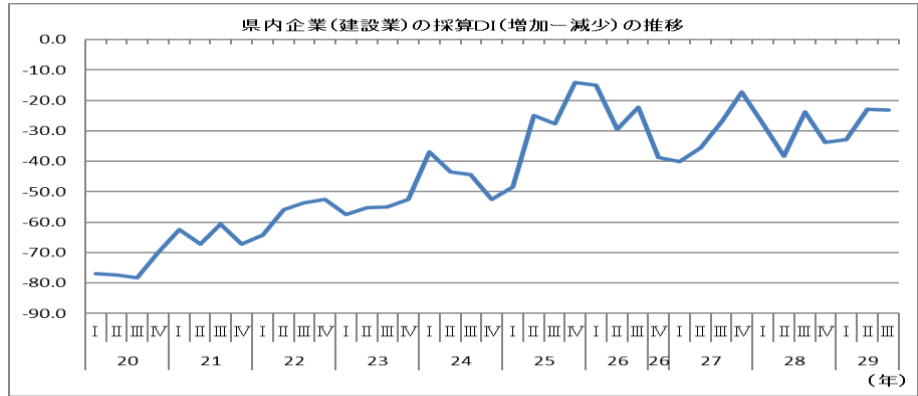
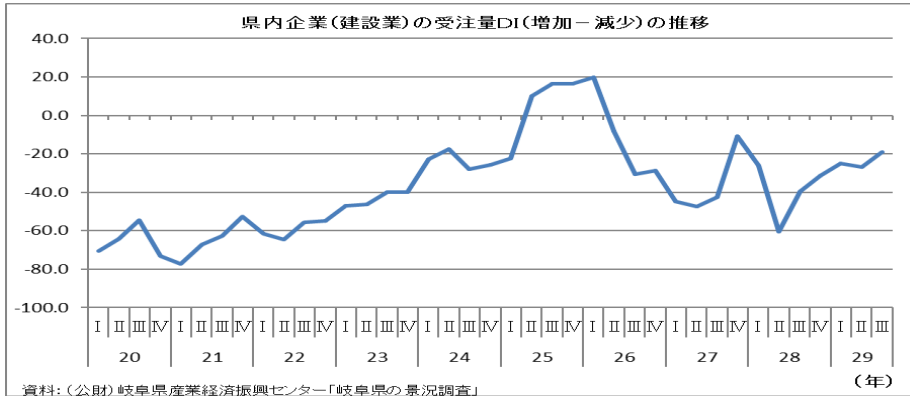
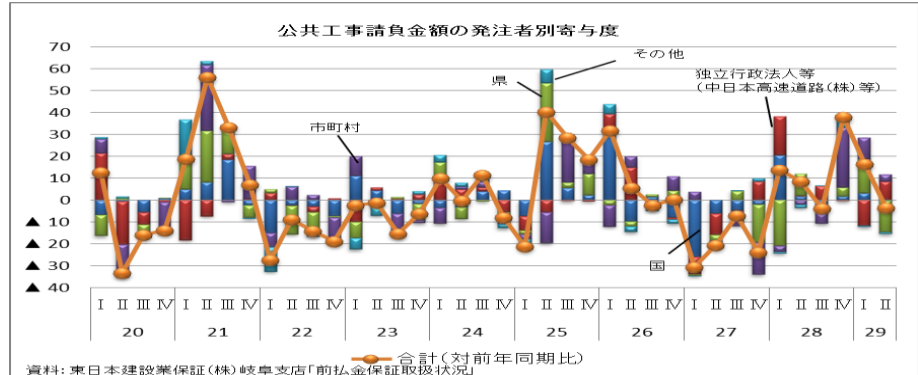
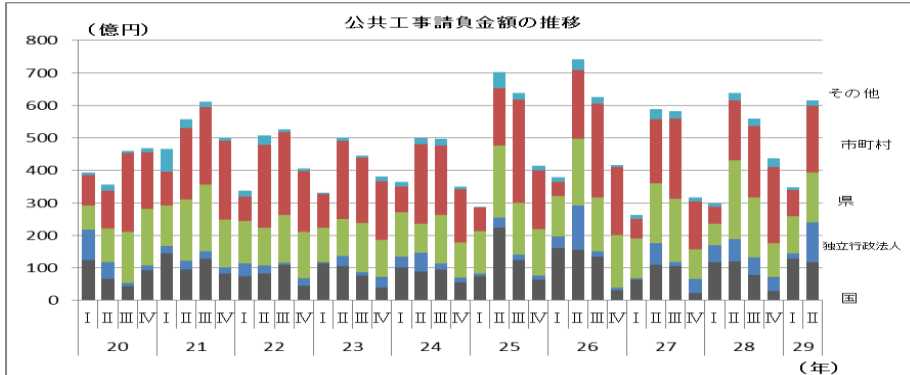


現場の動き

- ◆県内、県外の展示場の集客・受注は前年並み。(住宅建設)
- ◆森林作業員が集まらない。県内でもガイダンスが開催できないか。(林業労働力確保支援センター)
- ◆原木が足りない。細いものが出てこない。太いものはあるが、それを挽いて細くしては採算が合わない。一斉造林でほぼ同じような太さの木しかない。どうしても余るものと足りないものがある。(製材)
- ◆製品価格が上げられないため、材木を高く買うこともできない状況。末端の製品価格が上がるように需要を増やすことを考える必要がある。行政は工場を作るような補助ではなく、需要を増やすような取組みをして欲しい。(製材)
- ◆A材、B材ともに需要は横ばい。A材のスギの原木価格が上昇、ヒノキは横ばい。B材の原木価格はスギがやや下落。C・D材は横ばい。(森林組合)

公共工事

- 平成29年4－6月期の発注者別の公共工事請負金額については、独立行政法人が前年同月比プラス83.2%と大幅に増加し、市町村も同10.8%増加した。
- 県内建設業の受注量DIは前期比7.9ポイント改善。平成28年第2四半期を底に、受注量には改善傾向がみられている。一方で同採算DIは0.3ポイント微減した。



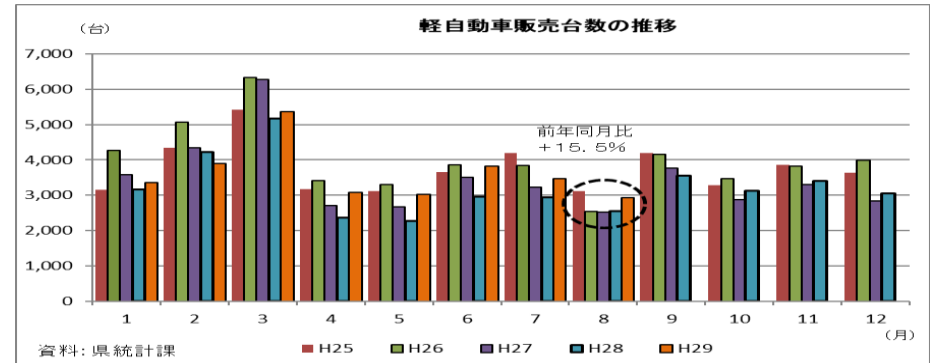
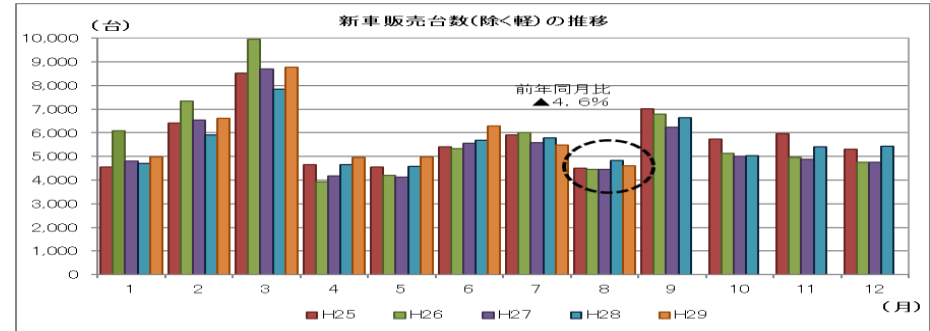
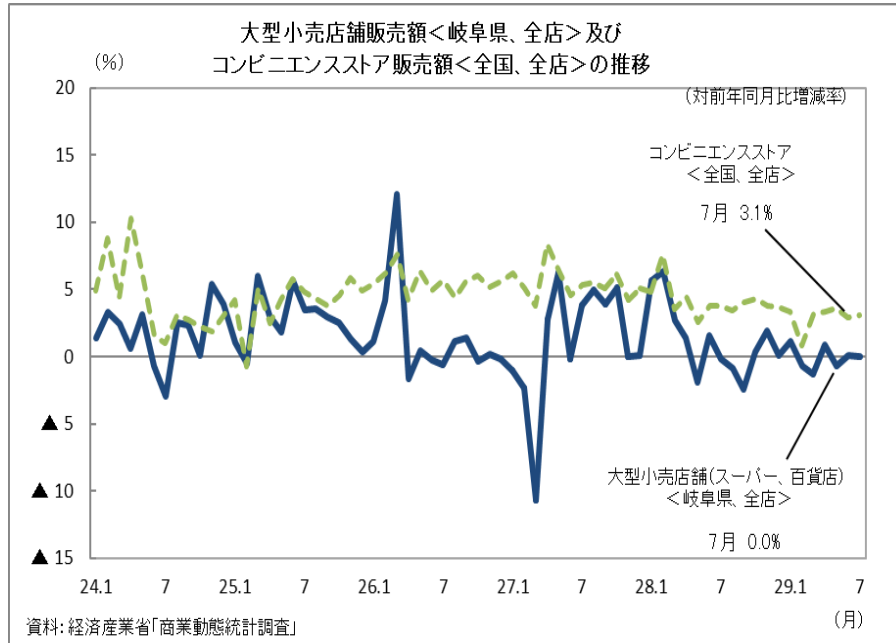
現場の動き

- ◆県、国の公共工事はともに前年並み。
- ◆技術者・技能者ともに現時点で不足感があるということはないが、近い将来起こりうる人材不足に備え、積極的な採用が必要と考えている。また、高校生へのアプローチが解禁となり、取組みを強化している。
- ◆建設部門と総務部門が一体となり、現場技術者・技能者が休みを取れるように改革を推進している。
- ◆完全週休二日は難しいが、現場内で休暇を調整している。(以上、建設業者)

個人消費(流通・小売)

- 7月の大型小売店販売額は、前年同月比で±0%と横ばいとなった。
- コンビニエンスストアの7月販売額は、前年同月比3.1%の増加と、コンスタントに3%程度の伸びを維持している。

- 8月の新車販売(除く軽)は、前年同月比4.6%減少し、2ヶ月連続で前年を下回った。
- 軽自動車は、同15.5%増加と6ヶ月連続で前年同月を上回っている。

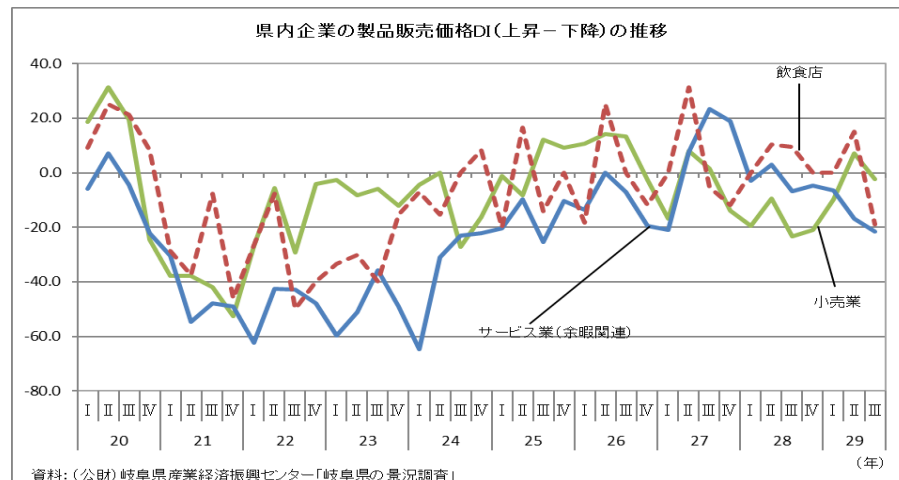
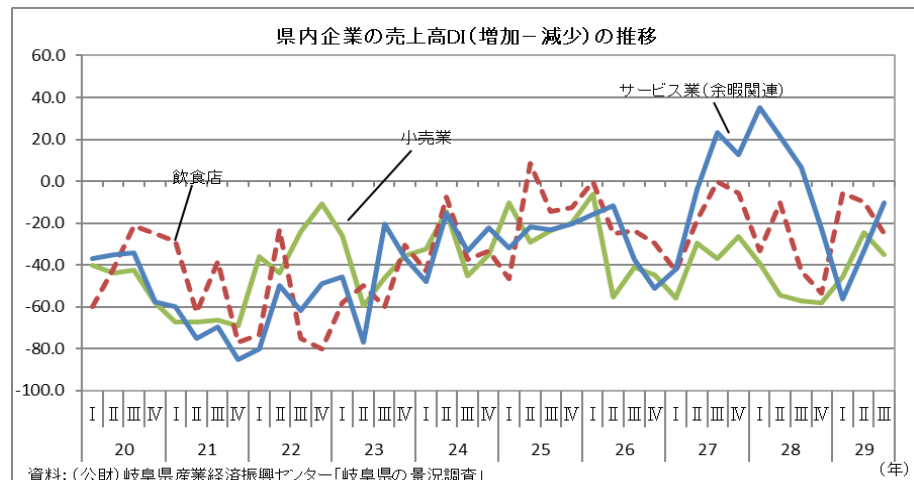


現場の動き

- ◆8月の売上は隣接地の店舗と協調セールを行ったため好調で、前年同期比2%増加。新車販売、サービス売上は前年並み。映画は昨年のビッグヒットの反動減で同50%へ落ち込んでいる。近隣に大型商業施設のリニューアルオープンや新規オープンが予定されており、影響を注視している。(大型商業施設)
- ◆売上は前年同月比横ばい。住居関連1.9%増、専門店4.0%増とそれぞれ売上を伸ばしているが、衣料が同0.4%減と低調。来客数は全体で2.4%減少したものの、客単価は同5.1%増加した。(大型商業施設)
- ◆9月の売上高は前年同月比101.4%と増加。来店客数は同99.6%と微増。(コンビニ)

個人消費(流通・小売)ー2

- 平成29年7ー9月期の売上高DIは、小売業で前期比10.5ポイント、飲食店で同15.0ポイントそれぞれ大幅に悪化。一方でサービス業(余暇関連)については同22.9ポイントと大幅に改善。
- 同じく販売価格DIについては飲食店で▲33.8ポイントと大幅に悪化したことに加え、小売業で9.4ポイント、サービス業で4.8ポイントそれぞれ悪化した。



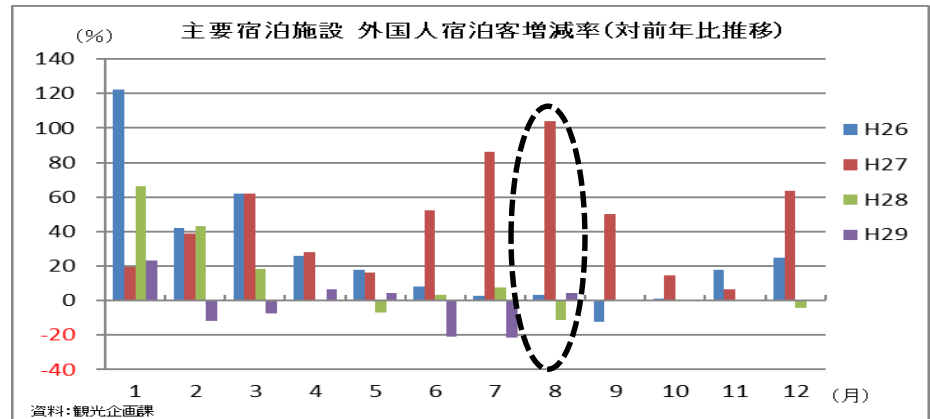
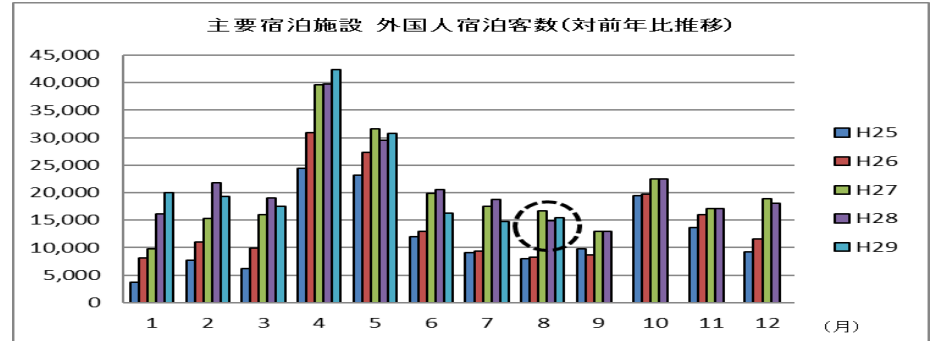
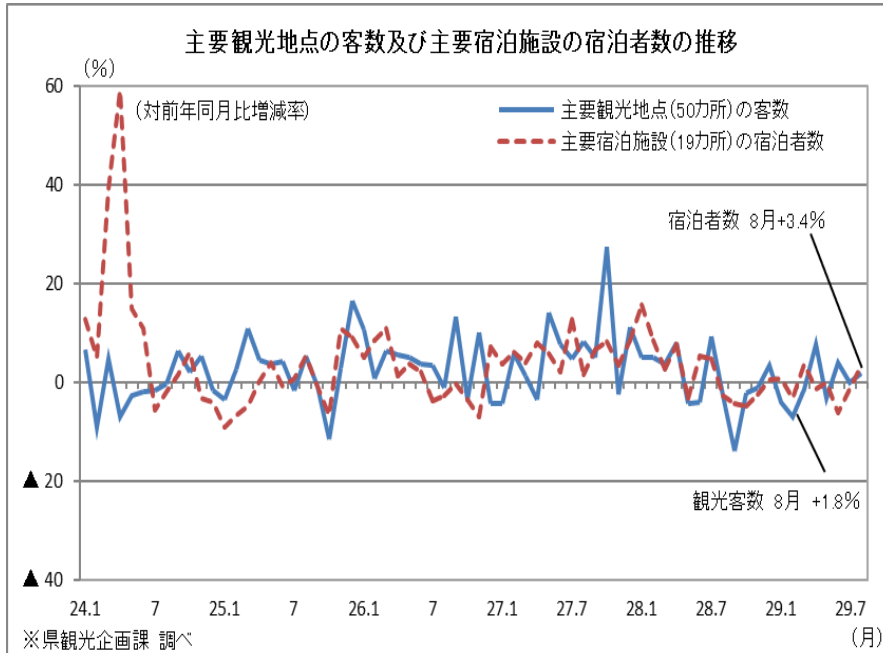
現場の動き

- ◆入館者数は前年同月比で100%を上回る。館全体売上についても4ヶ月連続で前年同月を上回る見込み。
- ◆飲食、物販、ファッション、サービスは前年同月比100%を上回るが、食料品は前年を下回る。(以上、アクティブG)
- ◆台風の影響もあり、9月は全体的に人通りが少なかったが、ジュラシックアーケードは大変な人手で、飲食店は良かった。
- ◆和菓子店の売上は前年同月比4%増。アクセサリはジュラシックアーケード開催や新商品の好調により、同60%増。ブティックは夏物の低価格商品は良かったが、単価が伸び悩み、同4%の減少。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆台風の影響を受けたものの、婦人服店が前年同月比横ばい。和菓子店は同1%増加。(以上、大垣市商店街)
- ◆売上は、陶器・土産店が前年同月比90%、衣料品店は急に気温が下がり、冬物の購入者が増えたため同107%。
- ◆北朝鮮情勢が高山の観光に悪影響を及ぼしている。(以上、高山市商店街)
- ◆15日から国際陶磁器フェスティバルが始まり、商店街にもそれらしき人が若干みられる。9月中旬から新酒が出てきているが前半の落ち込みがカバーできず、酒類販売店の売上は前年同月比2%減。(以上、多治見市商店街)

観光

- 主要観光地における8月の観光客数は、前年同月比1.8%の増と2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- 同じく主要宿泊施設における宿泊者数は、同3.4%の増と5ヶ月ぶりに前年を上回った。

- 8月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比の増減率では17.5%増と3ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

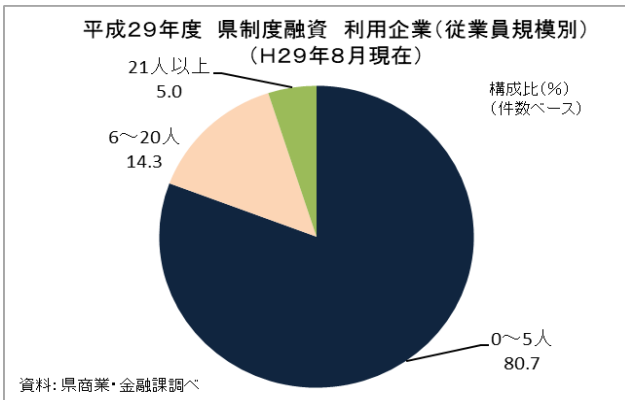
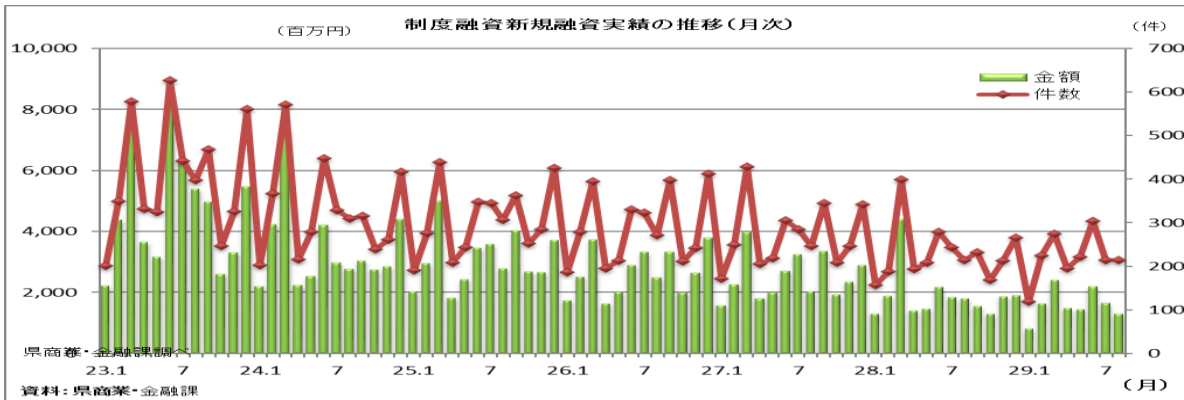
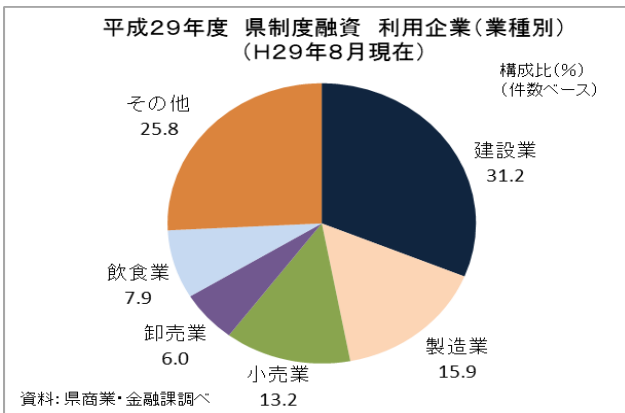
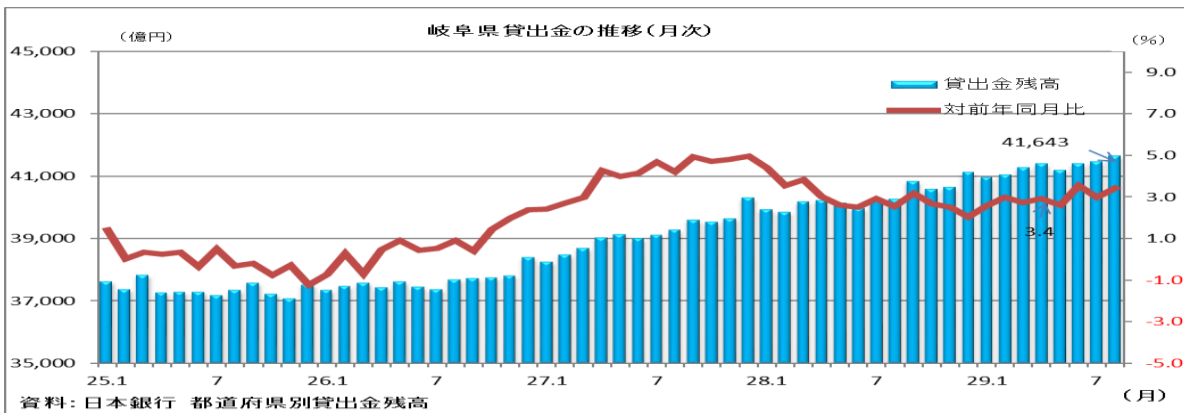


現場の動き

- ◆中国からの外国人宿泊客が増加傾向にある。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆8月は中国が好調だが、9月、10月は例年減少する傾向にある。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆中国からのお客様が半減している一方、台湾からのお客様が増加している。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆夏期は高山の気候柄、インバウンドが落ち着いており、国内旅行が大半を占めている。(高山市内の宿泊施設)
- ◆インターネット予約は好調だが、団体、個人の直接予約は前年比の7割程度にとどまっている。(高山市内の宿泊施設)
- ◆ヨーロッパ、特にスペインからのお客様が増えている。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 8月の岐阜県貸出金残高は、4兆1,643億円で前年同月比3.4%増と引き続き高い伸びを続ける。
- 8月の制度融資実績は、金額が1,297百万円で同28.1%減少。件数は214件と前年と同数。
- 業種別では建設業が31.2%、製造業が15.9%、小売業が13.2%と3業種で6割以上を占める。
- 従業員規模別では、0~5人の事業所の利用が8割を超える。

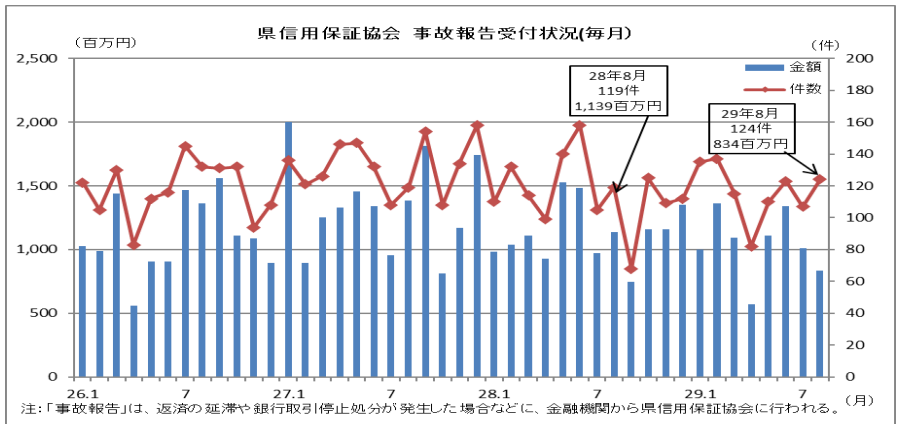
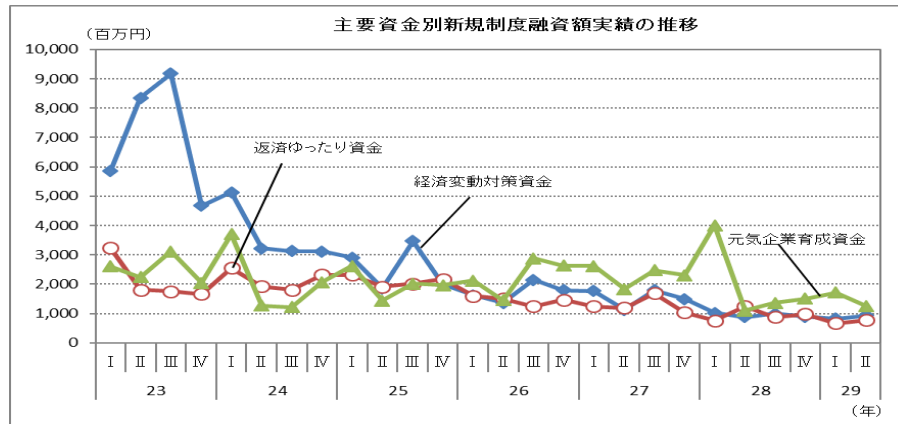
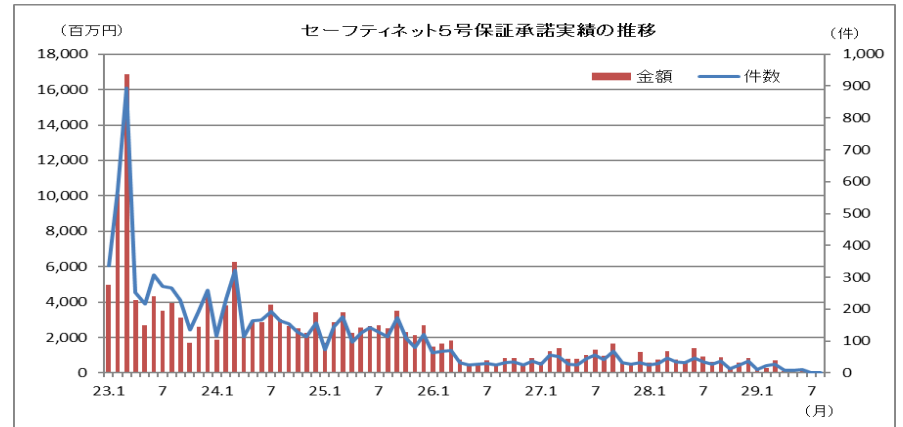
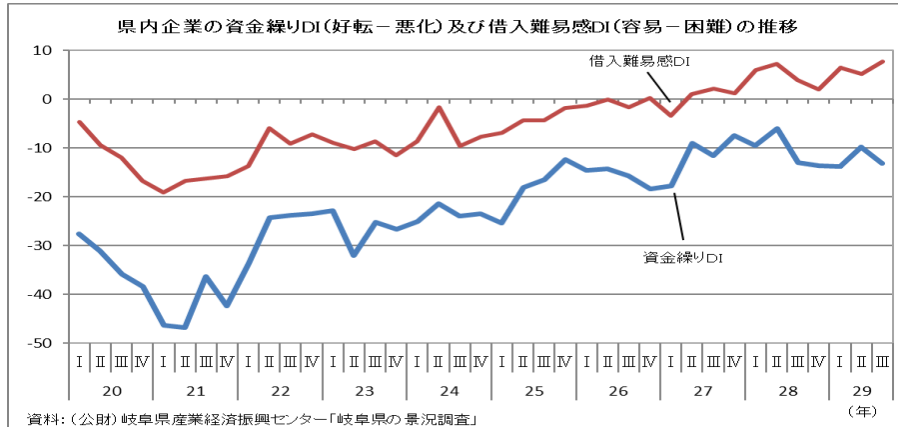


現場の動き

- ◆企業の課題である販路開拓ニーズや事業承継などの改善提案や相談を通じて、取引先との対話を深めている。
- ◆人手不足を生産工程の見直しでと考えている企業もあるが、採算性を考えるとなかなか実行までには至っていないのが現状。(以上、金融)

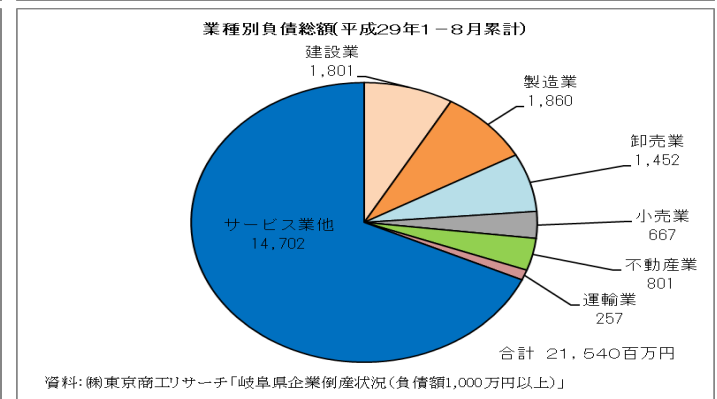
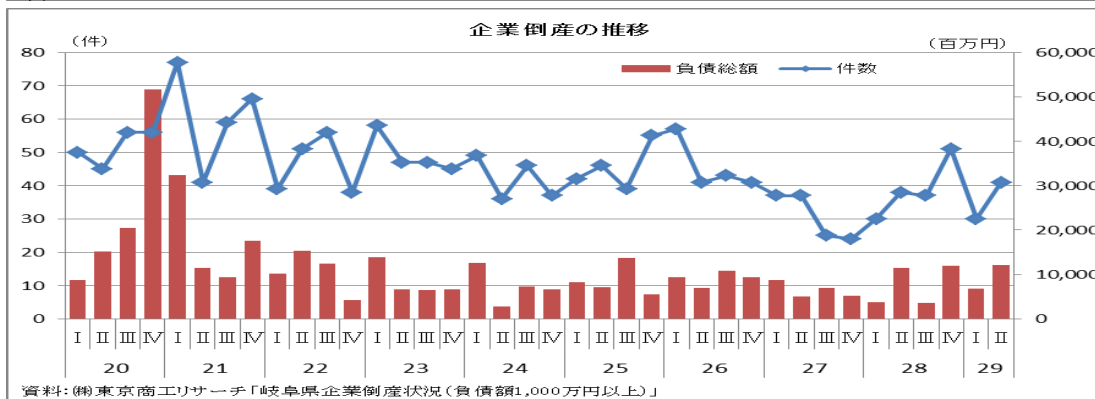
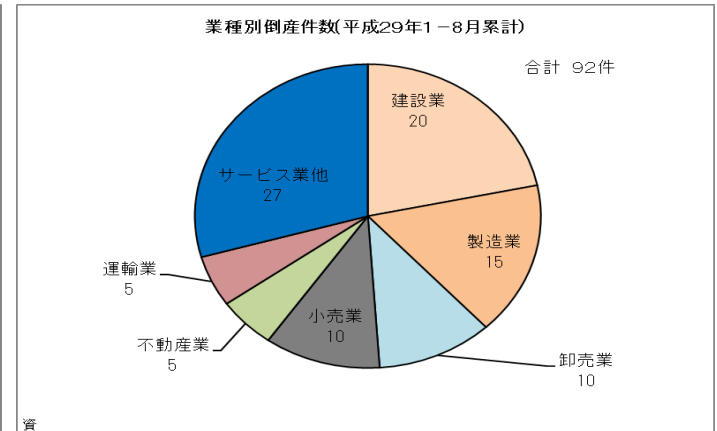
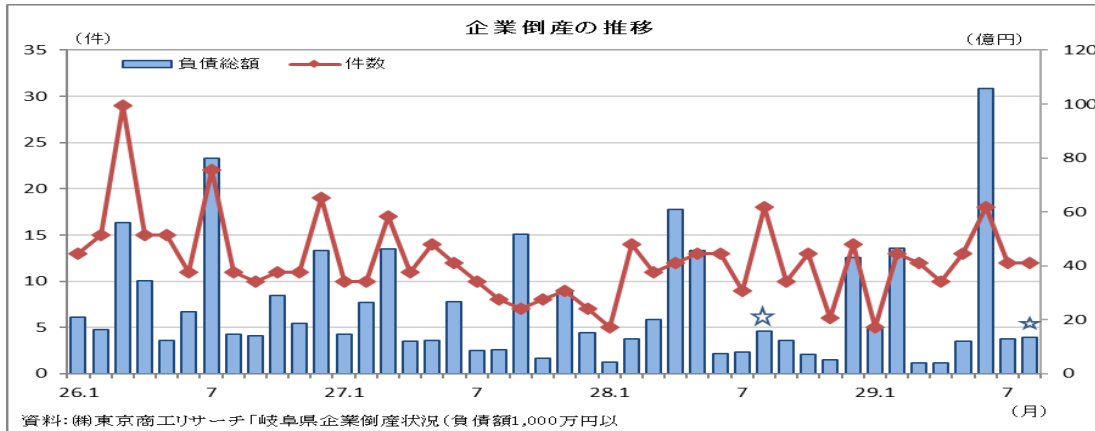
資金繰りー2

- 県内企業の平成29年7－9月期の借入難易感DIは、7.7ポイントと前期比2.5ポイント改善。一方で、資金繰りDIについては、マイナス13.1ポイントと、同3.3ポイント悪化した。
- 主要資金別新規制度融資実績では、前年同月比で経済変動対策資金が56.6%、返済ゆったり資金が28.3%減少しているのに対し、元気企業育成資金は同33.0%の増加となる。
- セーフティーネット5号保証承諾実績は、件数が前年同月比92.9%減少し2件。金額についても同98.5%減少し10百万円と、経済状態が落ち着く中で、利用は非常に低調に推移している。
- 平成29年8月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数が124件で前年同月比プラス4.2%と2ヶ月連続で増加。金額は834百万円で同▲26.8%と2ヶ月ぶりに減少した。



倒産

○8月の倒産件数は前年同月比▲6件の12件。負債総額は同13.98%(2億20百万円)減少し、13億53百万円。依然小口の倒産が大勢を占めるものの、変動の少ない倒産動向で推移。
○業種別では、サービス業が件数で全体の4分の1超、負債総額で7割近くを占める。



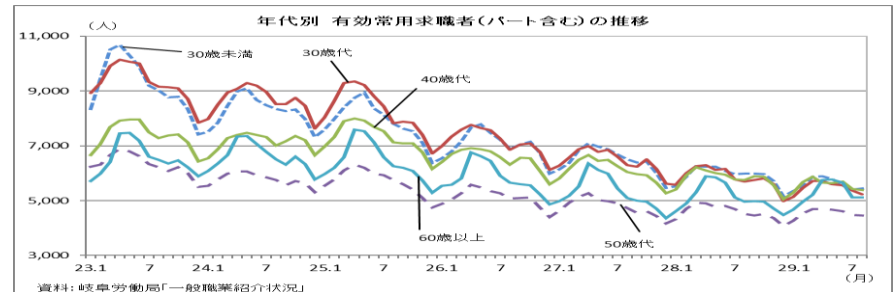
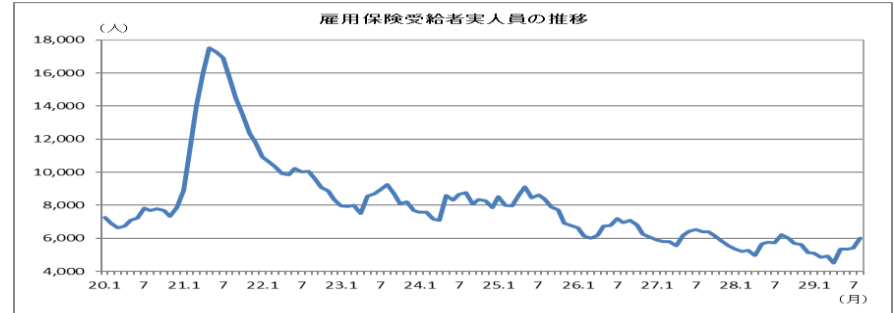
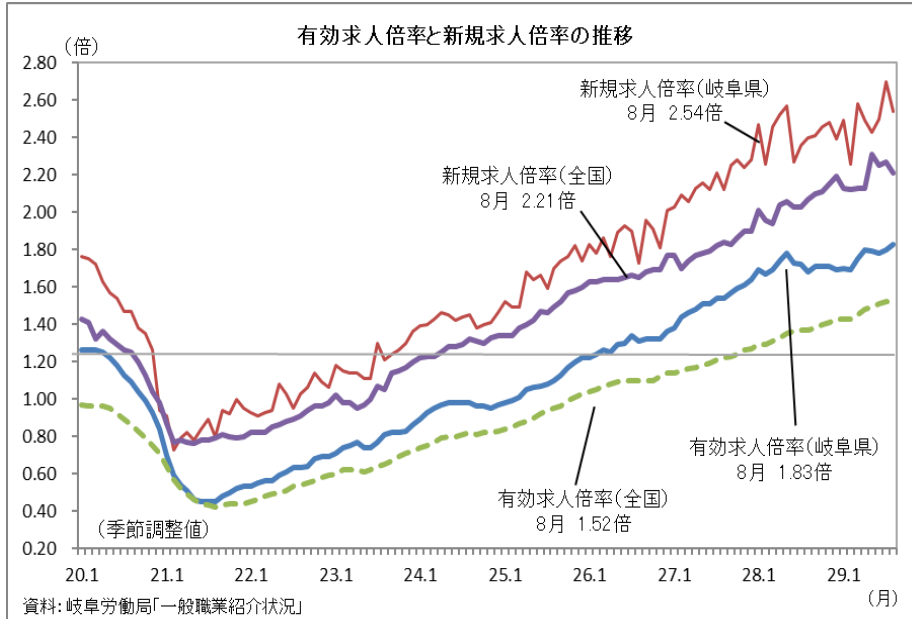
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

◆7月、8月と2ヶ月連続で負債額10億円以上の大型倒産が発生しなかったなど、件数・負債総額ともに変動の少ない倒産動向で推移している。しかしながら、業績改善が進まなくてもリスク等の金融支援策により辛うじて事業運営を続けてきた中小・零細企業が少なくない状況の中、今後秋口から年末にかけて資金需要が活発になる時期を迎えるため、資金繰りに窮するなど「息切れ倒産」が増勢に転じる懸念は拭えない。

雇用

- 8月の有効求人倍率は1.83倍と前月より0.03ポイント上昇。全国第6位と愛知を上回る。
- 8月の新規求人倍率は2.54倍と前月より0.16ポイント減少した。

- 8月の雇用保険受給者人員は前年同月比2.9%減と50ヶ月連続で前年を下回る。
- 年代別有効常用求職者では、60歳以上のみが前年同月比で増加となっている。



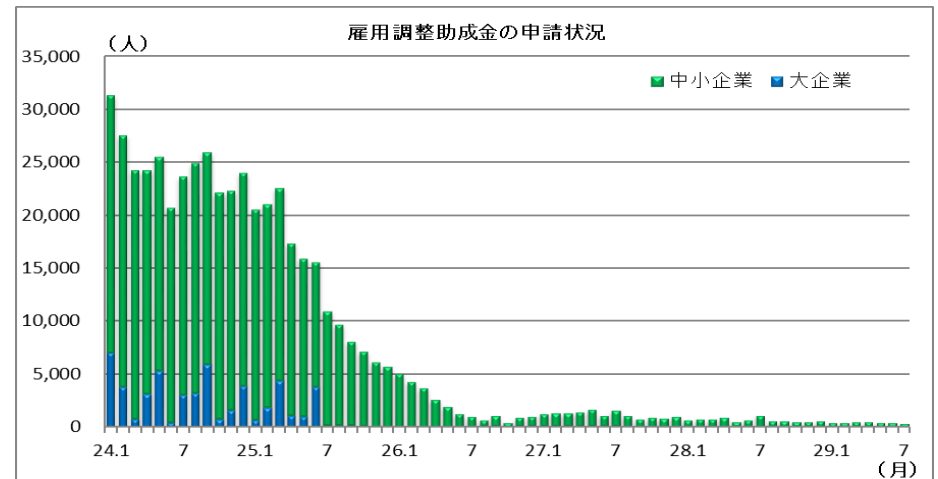
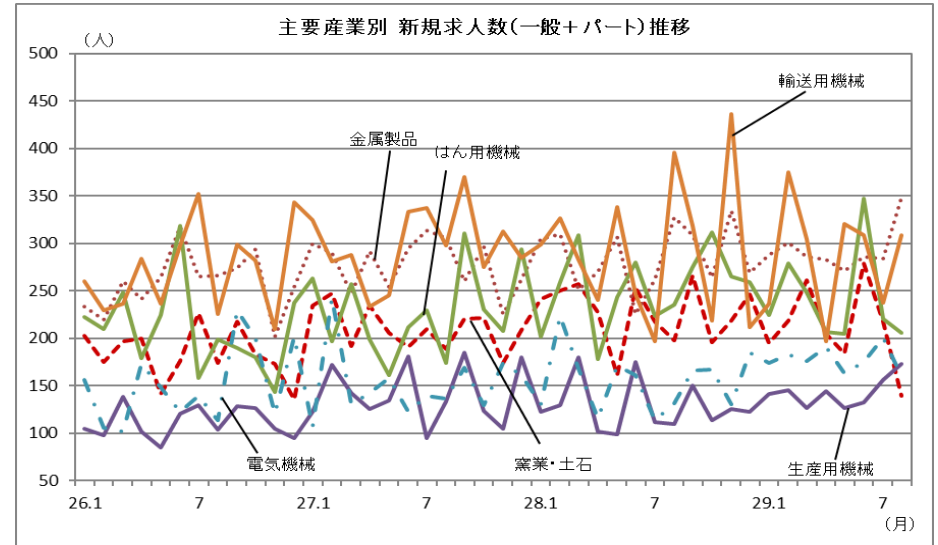
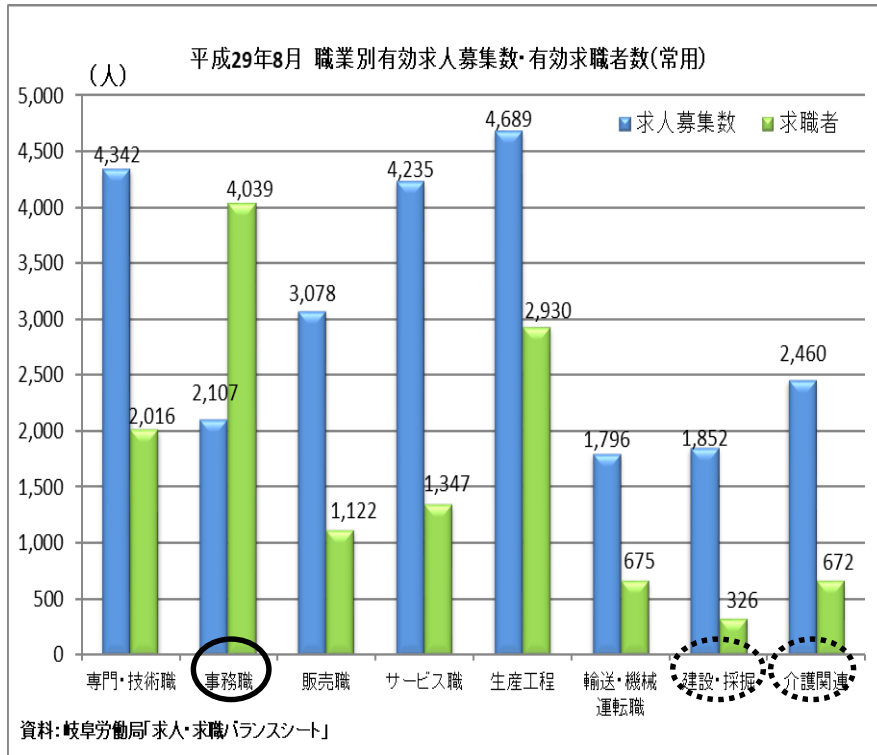
現場の動き

- ◆今年6月に採用活動が解禁されたが、その時点で採用通知を出しても2割しか残らない。大手志向が強く、大卒の採用は厳しさが増している。(輸送用機械)
- ◆4月から9月の間で、派遣社員のうち15名程度を正社員へ登用した。本当に欲しい有能で若い人は大企業に流れてしまうため、なかなか採用できない。(輸送用機械)
- ◆若年層の採用をコンスタントに行いたいだが、新卒者は少なく、中途採用が多い。ただ最近では中途採用でも大手を辞めて、Uターンした者など即戦力になるような人材もいる。来春も新卒の採用は困難であると思われるので、中途採用者で補いたい。(電気機械)
- ◆人手不足は続いている。製紙工場勤務の人材確保は依然として厳しい。(製紙)

雇 用(職業別)

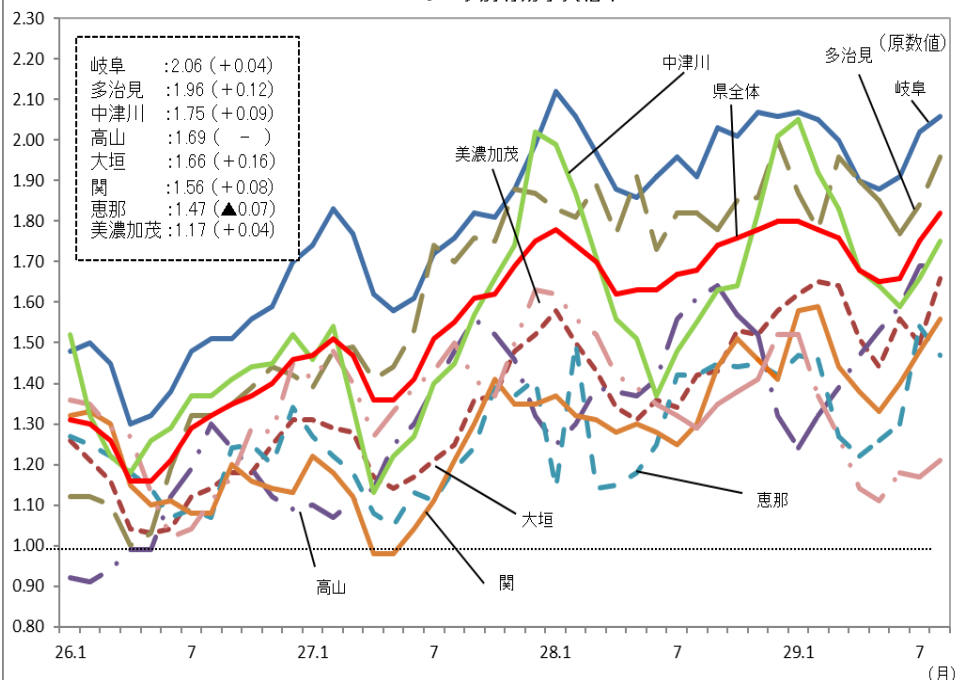
- 各分野において人手不足の状態となっているが、建設・採掘の求人倍率約5.7倍や、介護関連の求人倍率3.7倍など、専門人材の不足が引き続き顕著になっている。
- また、サービス職3.1倍、販売職2.7倍などサービス産業においても人手不足は深刻。
- 一方で、事務職の求人倍率は0.5倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

- 8月の主要産業の新規求人数は、前年同月比で生産用機械が58.7%、電気機械が22.1%と大幅に増加。一方で、窯業・土石▲29.8%、輸送用機械▲22.0%、はん用機械▲12.0%とそれぞれ減少した。



雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



注1: 大垣所分は損棄出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○8月のハローワーク別有効求人倍率は、恵那地域が下降、高山が横ばい、それ以外の地域は上昇。全体的に有効求人倍率が高止まりしている。

現場の動き(先月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

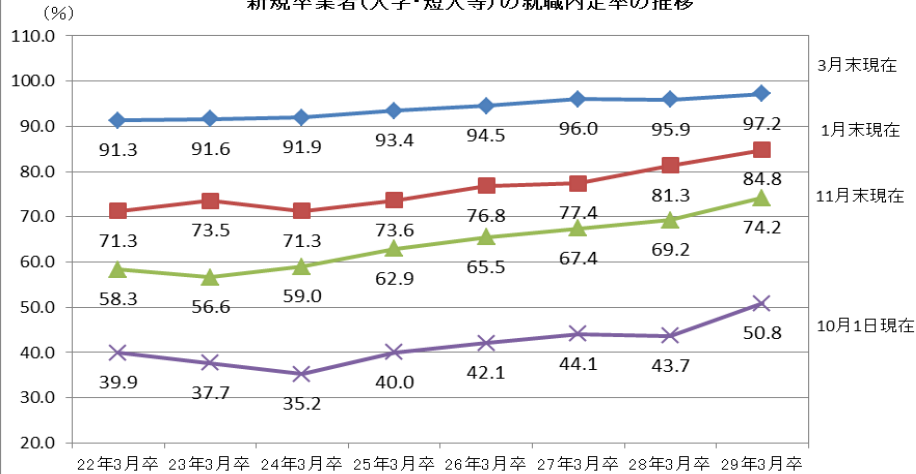
<窓口の様子>※前月比

- ◆恵那、関は前月並み。
- ◆岐阜、大垣、多治見、高山は前月より混雑している。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

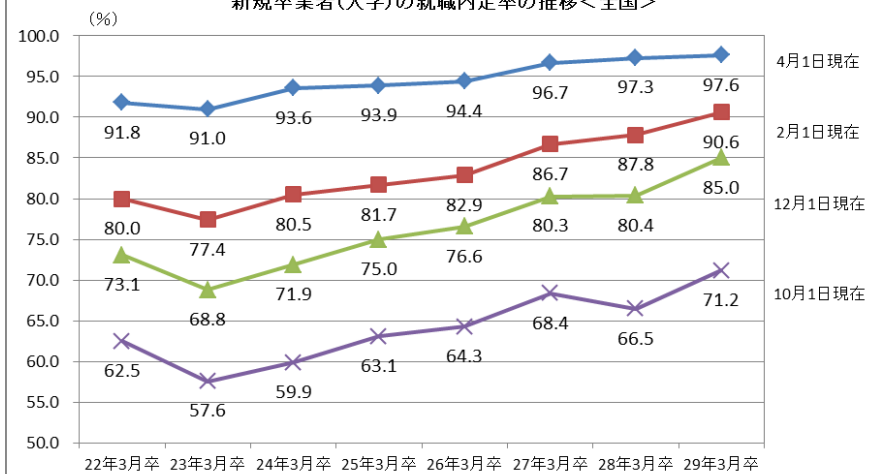
○3月末時点の大学・短大卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比1.3ポイント増の97.2%となり、直近8年で最も高い内定率となる。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移



資料: 岐阜労働局「新規大学等者の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(平成30年3月卒の動き等)

<企業動向>

- ◆18年卒採用については、概ね終息に向かいつつある。
- ◆19年卒の市場においては、活発に動いており、秋冬に向けてインターンシップを継続的に実施する企業が増加。

<学生動向>

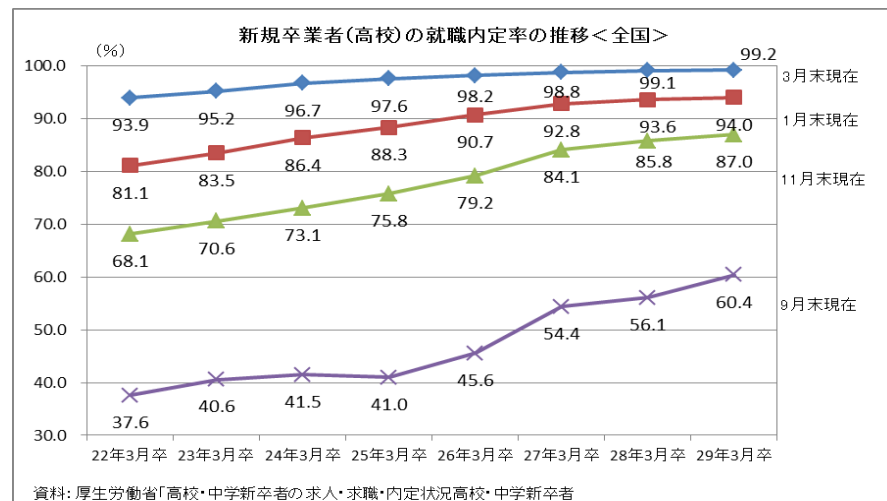
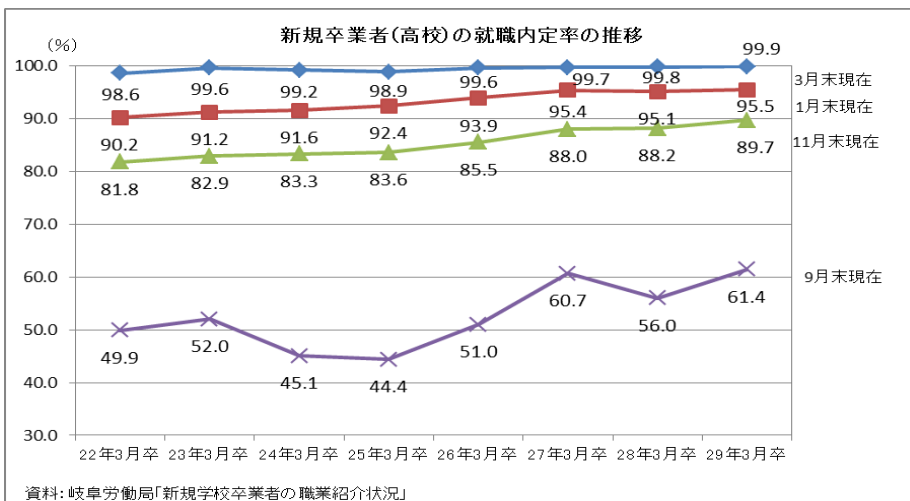
- ◆8月末時点の内々定率は82.7%。前年同月比5.2ポイント増加。
- ◆内々定先に満足し就職活動終了の割合も76.2%と、概ね終息しつつある。(以上、マイナビレポートより抜粋)

<大学へのヒアリング>

- ◆内々定率は集計中。18卒生のキャリアセンターの利用がほぼ無く、決まっているのではないかと。(県内大学)
- ◆9月末時点の内々定率は65%。決まっていない学生もいるが、キャリアセンターで企業とマッチングをしている。
- ◆18卒の9月末時点の内々定率は9割程度。夏休み明けにはほぼ決まった様子。(愛知県内の工業大学)
- ◆18卒生の文系学部の9月末時点の内々定率は78%。昨年度より数値が高い。(愛知県内大学)

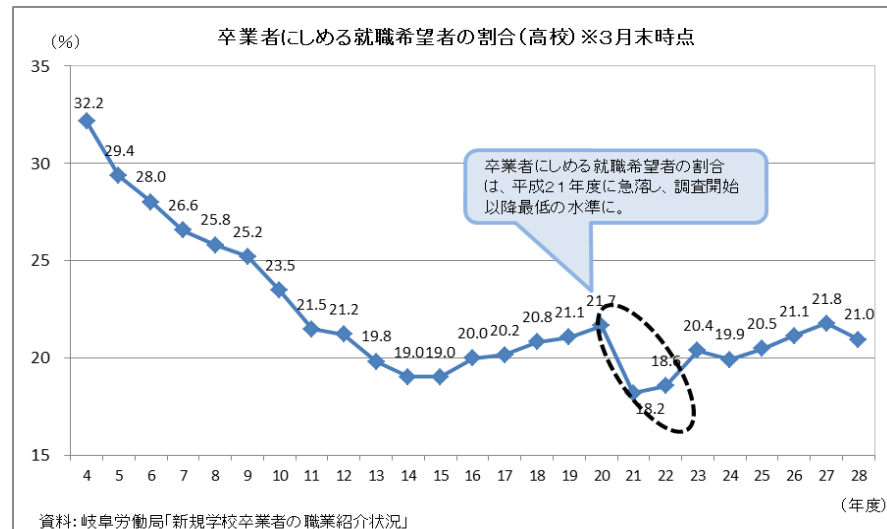
雇 用(高校新卒者の就職)

- 3月末時点の高校卒業者(平成29年3月卒業)就職内定率は、前年比0.1ポイント増の99.9%となり、直近8年で最も高い内定率となると同時に、全国の就職内定率を大きく上回っている。
- 全国の就職内定率は昭和63年以降で最高水準となる。
- 平成28年度卒業者における就職希望者の割合は、4期ぶりに低下した。



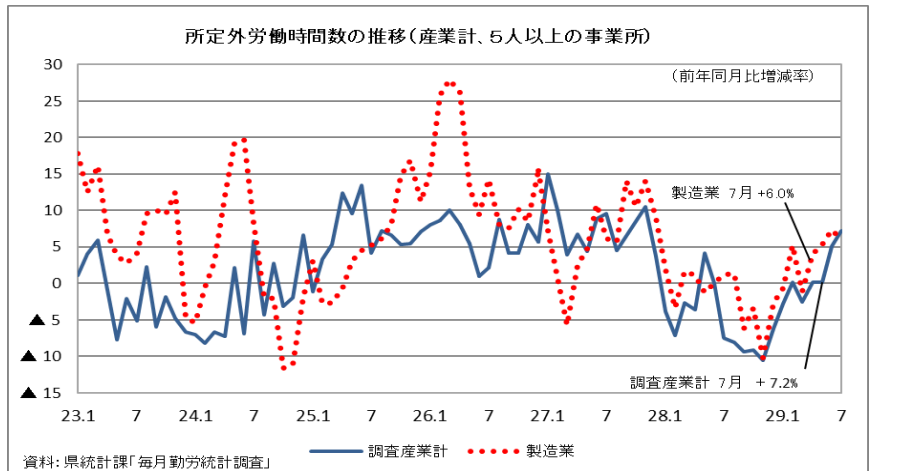
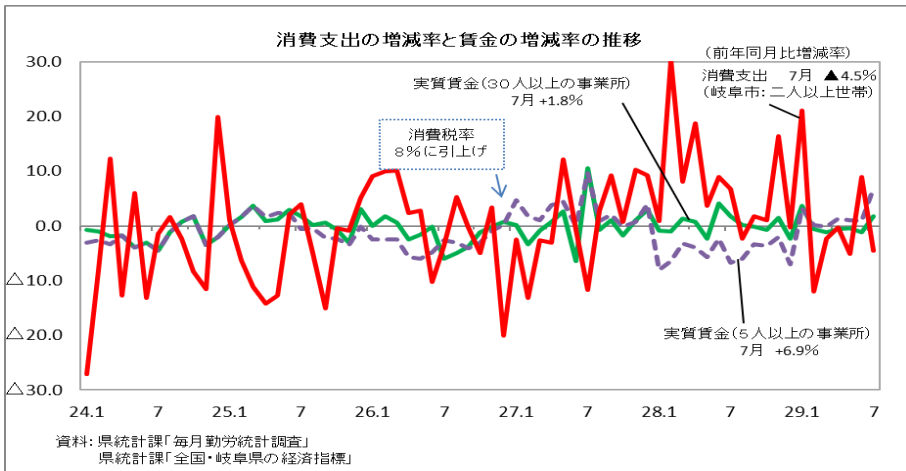
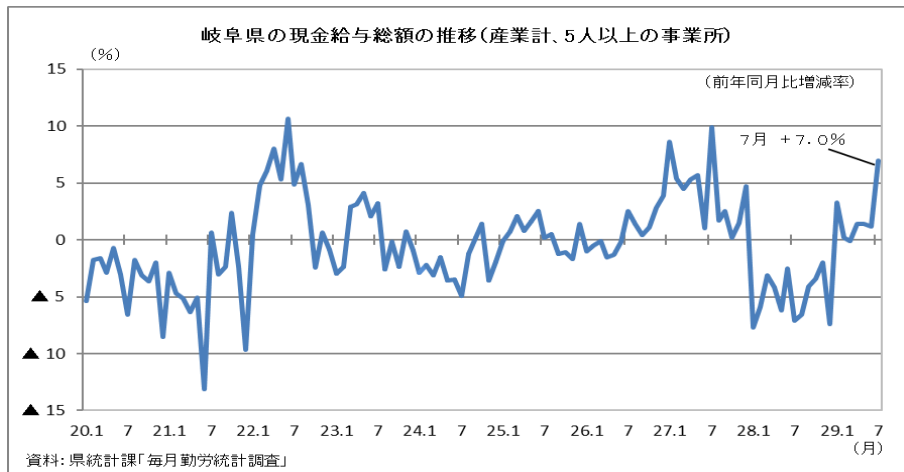
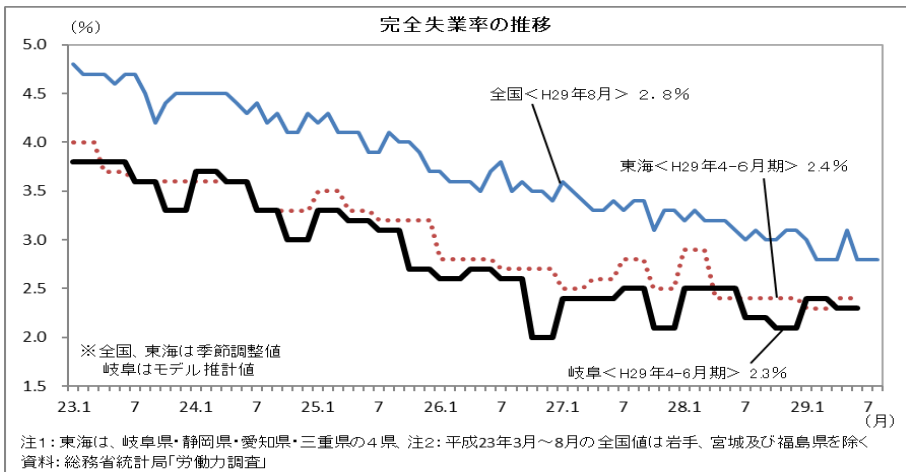
現場の動き(H30.3卒の求人状況)

- <ハローワーク岐阜> 求人は増加。
- <ハローワーク大垣> 求人は増加。
- <ハローワーク多治見> 求人は増加。
- <ハローワーク高山> 求人はやや増加。
- <ハローワーク恵那> 求人はやや増加。
- <ハローワーク関> 求人は増加。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人は増加。
- <ハローワーク中津川> 求人は横ばい。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の8月の完全失業率は2.8%と前月比横ばい。岐阜県の平成29年4-6月期の完全失業率は2.3%と、依然として全国平均よりも低く、2期ぶりに東海地方の平均よりも低い水準となった。
- 7月の岐阜県の現金給与総額は、前年同月比7.0%増加と高い伸びを示している。
- 7月の賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比6.9%増加、30人以上の事業者においても同1.8%の増加となる。消費支出については同4.5%減少と2ヶ月ぶりに前年を下回っている。
- 7月の所定外労働時間数は前年同月比7.2%増加。製造業においては6.0%増加した。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、一部の業種で鉱工業生産指数に弱含みがみられるものの、電気機械をはじめとして底堅い推移がみられるとともに、好調を示すヒアリングも多くみられることから、全体としては上向きの動きが継続している。
- 地場産業は、海外製品等との競合、国内需要の低迷、原材料費高騰による収益の圧迫など厳しい状況が継続しているが、輸出向けなど一部に持ち直しの動きも見られる。
- 設備投資は、設備投資意欲が4期ぶりに減少、「生産能力拡大・売上増」のニーズが低下したが、人手不足への対応とみられる「合理化・省力化」のニーズが高まり、国内の金属工作機械受注額は前年同月比で大幅に増加するなど、底堅く推移している。
- 個人消費は、新車販売台数は前月に続き前年を下回ったが、軽自動車の販売台数は引き続き堅調な推移を見せ、現金給与総額や実質賃金についても改善の動きがみられるなど、明るい兆しが見えつつあり、緩やかな持ち直しの動きが継続している。
- 観光は、1ヶ月を通し天候に恵まれなかったが、テレビや映画等で話題になった施設への入込客数が多く、全体として観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った。
- 企業の資金繰りは、借入難易感DIは金融機関の積極的な融資姿勢から、借入しやすい状況が継続しているが、資金繰りDIは悪化傾向にあり、事故報告件数が2ヶ月連続で増加、倒産も相応に発生するなど、小規模企業にとっては厳しい状況が継続。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、良好に推移しており、総じて県内の雇用情勢は引き続き改善している。但し、大手志向の強まりや、求人と求職のミスマッチ等により、多くの中小企業では採用難に陥っており、人手不足が慢性化している。